

1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

[評価実施概要]

事業所番号	4079600401		
法人名	有限会社 英		
事業所名	グループホーム なごみの里		
所在地 (電話番号)	福岡県田川郡川崎町大字田原2185-1 (電 話) 0947-72-3939		
評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 評価事業部		
所在地	福岡県北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成22年1月28日	評価確定日	平成22年3月26日

[情報提供票より] (平成22年1月15日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 8 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 7 人, 非常勤 2 人, 常勤換算 4, 7 人	

(2) 建物概要

建物構造	木造耐火造り
	1 階建ての 1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000	円	その他の経費(月額)	13,000	円
敷金	無				
保証金の有無 (入居一時金含む)	300,000円		有りの場合 償却の有無	有 3年	
食材料費	朝食	円	昼食	円	
	夕食	円	おやつ	円	
	または1日当たり 1066 円				

(4) 利用者の概要 (1月15日現在)

利用者人数		8 名		男性 2 名		女性 6 名	
要介護1		2 名		要介護2		1 名	
要介護3		3 名		要介護4		0 名	
要介護5		2 名		要支援2		0 名	
年齢	平均 82 歳			最低 60 歳		最高 90 歳	

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	日高医院・うえだ歯科医院・川崎町立病院
---------	---------------------

[外部評価で確認されたこの事業所の特徴]

グループホーム「なごみの里」は小高い丘の上にあり、柿・栗・蜜柑・檸檬等の果樹が実る、広い敷地を有しており、自然に囲まれた中でゆったりと過ごす事ができる環境がある。運営者・管理者の地元でもあり、地域との馴染みの関係の中で、小学生が気軽に訪れ、入居者の方々の一番の笑顔となり、ほのぼのとした姿を見る事ができる。今年度は、運営者・職員により理念「私達は敬意と誠意をもって、地域の方々との交流を深め互いに協力しあい、質のあるサービスの提供とより良い環境づくりに努めます。」が作り上げられており、全員で取り組んだことにより、方向性をあらためて共有する機会となり、連帯感が更に深まる事にもつながっている。開設して7年目を迎えている中で、課題に1つずつ取り組みながら、サービスの向上に取り組む姿勢を保ち、家庭的な温もりの中で、日々の暮らしを支援している事業所である。

[重点項目への取り組み状況]

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回評価以降、新たな理念が作成されている。また避難訓練や救命救急の勉強会についても、地域の方々との連携が行なわれており、評価の機会を活用し、サービスの向上に繋げていく取り組みが行われている。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価作成にあたり、ミーティングにて職員と話し合いを行い、管理者により集約されている。
重点項目②	運営推進会議の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は、家族が参加しやすいよう週末に行い、2ヶ月に1回定期開催されている。ホーム行事の予定や報告・入居者の状況・避難訓練等について話し合われている。有意義な開催となるよう模索している状況もあり、今後の多面的なアプローチに期待したい。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8, 9) 運営推進会議への家族の来訪も多く、率直な意見交換の場となるよう働きかけている。家族とのコミュニケーションの機会を大切にし、意見の言いやすい関係づくりに取り組んでいる。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 運営者の地元でもあり、地域との根付いた関係がある。また管理者は子供会の役員も務めており、廃品回収等への参加が行われている。地域行事である「神幸祭」や「獅子舞」に立ち寄ってもらったり、ホームでの「救命講習」に地域住民の参加がある。日常的に近隣農家の方より、収穫物の差し入れをいただくこともあり、「家族」として地域に溶け込めるよう、日々取り組んでいる。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
1. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	基本理念として「私達は敬意と誠意をもって、地域の方々との交流を深め互いに協力しあい、質のあるサービスの提供とより良い環境づくりに努めます。」と掲げている。運営者と職員により、共に作られた独自の理念であり、全員で考えたことにより、連帯感も更に深まることとなった。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念をリビングや休憩室などに掲示し、朝の申し送り時には唱和をするようにしている。定期的に運営者により理念についての話も行われ、あらためて共有する機会ともなっている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	運営者の地元でもあり、地域との根付いた関係がある。また管理者は子供会の役員も務めており、廃品回収等への参加が行われている。地域行事である「神幸祭」や「獅子舞」に立ち寄ってもらったり、ホームでの「救命講習」に地域住民の参加がある。日常的に近隣農家の方より、収穫物の差し入れをいただくこともあり、「家族」として地域に溶け込めるよう、日々取り組んでいる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回評価以降、新たな理念が作成されている。また避難訓練や救命救急の勉強会についても、地域の方々との連携が行われており、評価の機会を活用し、サービスの向上に繋げていく取り組みが行われている。今回の自己評価作成についても、ミーティングにて職員と話し合いを行い、管理者により集約されている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、家族が参加しやすいよう週末に行い、2ヶ月に1回定期開催されている。ホーム行事の予定や報告・入居者の状況・避難訓練等について話し合われている。有意義な開催となるよう模索している状況もあり、今後の多面的なアプローチに期待したい。		

グループホーム なごみの里

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携	入居者の方々の生活を、ホームだけでなく、行政との相談や理解を得ながら支援しており、連携してサービスの向上に取り組んでいる。		
		事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる			
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用	権利擁護に関する制度について、運営推進会議において議題として取り上げ、町役場職員による説明が行なわれている。またミーティングにおいて職員に説明する等、活用に向けての支援が行えるよう取り組んでいる。今後も継続しての取り組みに期待したい。		
		管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人には、それらを活用できるよう支援している。			
4. 理念を実践するための体制					
8	14	○家族等への報告	「なごみからのおたより」を手書きで作成し、写真を同封して、健康状態や金銭管理とともに、毎月家族に送付している。家族来訪時には、日々の状況や健康状態等についての報告に努めている。		
		事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている			
9	15	○運営に関する家族等意見の反映	運営推進会議への家族の来訪も多く、率直な意見交換の場となるよう働きかけている。家族とのコミュニケーションの機会を大切にし、意見の言いやすい関係づくりに取り組んでいる。		
		家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている			
10	18	○職員の異動等による影響への配慮	1ユニットであるため、異動が行われることは無く、離職も少ない状況にある。やむを得ず離職が発生した場合にも、重複勤務等に配慮し、入居者へのダメージが最小となるよう努めている。		
		運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている			
5. 人材の育成と支援					
11	19	○人権の尊重	職員の採用にあたっては、「自分の意見を言える人」「話しやすい人」を求めており、年齢や性別による排除は行なっていない。職員専用トイレ・休憩室を整備し、リラックスできる空間づくりを行い、旅行会や毎月の軽食付きの全体ミーティング等、働きやすい職場環境づくりが行われている。。		
		法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している。			

グループホーム なごみの里

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
12	20	○人権教育・啓発活動	新人研修やミーティングにおいて、認知症ケアや個別ケアについての話し合いを行なっている。運営推進会議でも町役場職員から人権尊重に関する話をしてもらい、職員に伝えている。		
		法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育・啓発活動に取り組んでいる。			
13	21	○職員を育てる取り組み	毎月の運営者参加の全体会議や、月末には職員ミーティングにおいて事例検討を行なう中で、意見を出し合い、お互いにレベルアップできるよう取り組んでいる。外部研修を案内し、伝達研修により共有を図っている。	○	職員の経験やスキルに応じた研修を効率的に実施していくためにも、また継続的に取り組むべき課題への取り組みとして、計画的な研修の機会の確保や、職員の自発的な取り組みが行われていく事に期待したい。
		運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている			
14	22	○同業者との交流を通じた向上	グループホーム協議会に加入しており、2ヶ月に1回の勉強会に積極的に参加し、情報の共有・交流の機会としている。		
		運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている			
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
2. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	○馴染みながらのサービス利用	本人・家族との面接を重ね、意向や要望の把握、馴染みの関係づくりに取り組んでいる。見学や体験入居により、家庭的なホームの雰囲気を感じてもらい、安心して入居できるよう個別に柔軟な対応が行なわれている。		
		本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	○本人と共に過ごし支えあう関係	「家族」としての関係づくりを大切にしており、管理者の子どもも気軽に訪れている。日々の暮らしの中で、将棋の仕方や駒のまわし方、編み物を習うなど、学ぶ場面も多々ある。		
		職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている			

グループホーム なごみの里

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	○思いや意向の把握	言葉や表情、行動等から、思いや意向の把握に努めている。入居者の方々の、主体性や意向を尊重しながら、少しでも自立した暮らしが継続できるようサポートしている。		
		一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している			
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	○チームでつくる利用者本位の介護計画	本人・家族の意向が記載されており、サービス項目も具体性があり、理解しやすい計画が立案されている。職員が作る介護計画もあり、それぞれの立場で入居者を把握して、ケアに努めようとしている。		
		本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している			
19	39	○現状に即した介護計画の見直し	モニタリング・アセスメントを定期的に行なっており、入居者の状況に合わせた計画を作成しようと努めている事が理解できる。	○	ケアプランと職員の作成する介護計画、日々のケアの内容に、更に連動性を持たせる事により、モニタリングやアセスメントが有効に機能してくと考えます。また記録様式の工夫により、状況の把握・職員間の共有が図りやすくなると考えます。
		介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している			
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	○事業所の多機能性を活かした支援	本人・家族の希望する医療機関への受診を支援している。入院時には、本人・家族・医師との話し合いを行い、早期退院に向けた支援を行っている。		
		本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている			
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	○かかりつけ医の受診支援	本人・家族の希望するかかりつけ医への受診を支援しており、職員が同行し、医師との連携を行なっている。		
		本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している			

グループホーム なごみの里

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有	重度化や終末期に向けた方針については入居時に説明し、医師への相談や家族・職員との話し合いにより、方針の共有に努めている。		
		重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している			
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	○プライバシーの確保の徹底	新人研修やミーティングにおいて、プライバシーの確保について確認する機会を持っている。特に言葉かけや対応について、年長者である入居者の方々への敬意や誇りを損なわないケアとなるよう指導が行なわれている。		
		一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない			
24	54	○日々のその人らしい暮らし	ホームとしてある程度のスケジュールは決めているが、一人ひとりの生活習慣やペースを大切にしたい、日々の支援に努めている。		
		職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している			
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援	買い物から調理の下ごしらえまで、希望や持てる力に合わせて参加してもらっている。家庭的な雰囲気の中で食事の準備が行なわれ、和やかな食事風景があった。		
		食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている			
26	59	○入浴を楽しむことができる支援	毎日の入浴にも対応しており、拒否する方にも少なくとも週2回は入浴できるよう、声かけやタイミング等を工夫しながら、無理強いとならないよう配慮している。		
		曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している			

グループホーム なごみの里

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援	自室の掃除や雑巾を縫ってもらったり、編み物や調理の下ごしらえ等を、職員と共に行ない、張り合いのある毎日となるよう支援している。毎日必ず時代劇を見る方や将棋の得意な方と		
		張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている			
28	63	○日常的な外出支援	広い敷地内の家庭菜園や花壇を見ながら散策したり、近隣への散歩や買い物等に出掛けている。外出時の車椅子利用者が多く、家族の参加・協力も得ながら、出来るだけ戸外に出掛けられるよう支援している。		
		事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している			
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	○鍵をかけないケアの実践	玄関は、朝6時から夕方6時まで開放しており、センサーが設置されている。施錠による弊害を理解し、入居者の所在確認や見守り、行動の把握により、自由な暮らしを支援している。		
		運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる			
30	73	○災害対策	年に2回、消防署との連携により避難訓練を行っている。訓練の様子を写真に残し、掲示している。消防署の指導による救命救急の研修を公民館で実施し、地域住民の参加を得ており、連携・協力体制への働きかけが行なわれている。運営者の自宅も近く、非常時にも心強い。		
		火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている			
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援	職員が買い物・献立・調理を行っている。食事摂取量を記録し、水分量についても摂取時間や摂取量をファイリングしている。医師の指示のもと、特別食や水分量・塩分等の摂取についてや食事形態等に配慮しながら、個別の対応が行われている。		
		食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている			

グループホーム なごみの里

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	○居心地のよい共用空間づくり	十分な広さを持つ共用空間は、整理整頓が行き届き、清潔感ある空間となっている。全体の床にカーペットが敷き詰められ、負担の軽減及び安全面での配慮、消音への配慮がなされている。食事作りの音や匂いが伝わる、家庭的な空間となっている。		
		共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている			
33	85	○居心地よく過ごせる居室の配慮	居室入口には入居者の目線の位置にあわせて、手作りのネームプレートがかけられている。自宅から使い慣れた家具やTVが持ち込まれており、それぞれの居室がその人らしい雰囲気を持ち、居心地の良さに配慮している。		
		居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている			